

〔 一般教養科 〕

〔 区 分 B 〕

選挙人の便宜と投票所投票主義の排除 アメリカの郵便投票選挙

岩倉秀樹*

*新居浜工業高等専門学校一般教養科

阪本昌成編「立憲主義 過去と未来の間」(有信堂), pp141-179, (2000)

郵便投票選挙 (all-mail-ballot-election, vote-by-mail) とは、各投票区の投票所を開設することなく、投票用紙を登録選挙人全員に郵送し、記入済みの投票用紙を郵便をもってまたは持参して選挙管理事務所に返還するという選挙の執行方法をいう。選挙人の便宜・投票参加の向上のため全米 18 州で経験され、オレゴン州は 1998 年に全選挙の郵便選挙化に踏み切った。投票所投票主義を排除する郵便投票選挙の各州での運用、功罪および州憲法・連邦法上の適合性を検討し、選挙人の便宜・投票参加の向上と秘密保持・選挙の公正確保という対立する両利益の関係を考察した。

現代法学入門

岩倉秀樹* (共著)

*新居浜工業高等専門学校一般教養科

有信堂(2000)

本書の第 10 章「国民の政治参加と選挙」を分担執筆した。分担執筆部分では、国会中心の代表民主制を国政運営の原則としつつ直接民主制の制度で補完するわが国の政治参加の方法、憲法上の普通・平等・秘密・直接の選挙の基本原則、選挙区・投票方法や選挙制度の種類 (多数代表制・少数代表制・比例代表制)、および、衆議院議員・参議院議員の選挙制度について論考した。知事の任期制、条例に基づく政策型住民投票、普通選挙原則の下での選挙権の剥奪・制限の再検討、および、選挙区間の投票価値の不平等などの諸問題についても指摘した。2001 年 2 月の増刷時に、参議院比例代表選挙の非拘束名簿式への変更に伴う改訂を行った。

〔 区 分 C 〕

口語的表現 “know what one is doing” の用例

尾崎司郎*

*新居浜工業高等専門学校一般教養科

新居浜工業高等専門学校紀要第 37 巻, pp95-107, (2001)

慣用表現 “know what one is doing” は、現代英語小説などでよく見かけられ、各種辞書にも定義付けがなされ、例文も載せられているが、さらにその正確な意味と語感の把握、使用場面などについて参考となるとされる用例をまとめたものである。

英語の諺に関する一研究 (3)

鴻上政明*

*新居浜工業高等専門学校一般教養科

新居浜工業高等専門学校紀要第 37 巻, pp109 -119, (2001)

英語の諺のうち愛情・悪魔・家庭・金銭・結婚・時・酒・真実・神・人生・物・老若・地名・死・色・天候を含むものを分類した。

1. 愛情篇
All is fair in love and war. 恋と戦は手段を選ばず。
2. 悪魔篇
Talk of the devil and he is sure to appear. 噂をすれば影がさす。
3. 家庭篇
There's no place like home. わが家ほど良いところはない。
4. 金銭篇
Money does not grow on trees. カネの生る木はない。
5. 結婚篇
Marry in haste and repent at leisure. あわてて結婚し、ゆっくり後悔せよ。
6. 時篇
Time flies. 光陰矢の如し。
7. 自然篇
Nature goes her own way. 自然は思うがままにふるまう。
8. 酒篇
In wine there is truth. 酒にまことあり。
9. 真実篇
Truth will out. 真実は表に出る。
10. 神篇
God is always on the side of the big battalions. 神は常に大軍に味方する。
11. 人生篇
Art is long, life is short. 少年老い易く学成り難し。
12. 老若篇
Never too old to learn. どんなに老いても学ぶのに遅すぎることはない。
13. 地名篇
All roads lead to Rome. すべての道はローマに通ず。
14. 死篇
The good die young. 善良な人は若死にする。
15. 色篇
The pot calls the kettle black. 目糞鼻糞を笑う。
16. 天候篇
It never rains but it pours. 降れば土砂降り。

生命倫理学入門 (3)

谷本修治*

*新居浜工業高等専門学校一般教養科

新居浜工業高等専門学校紀要第37巻, pp121-132, (2001)

本論は、不妊治療としての生殖技術の現状と、その問題点について以下のようにまとめたものである。

(1) 不妊治療としての生殖技術の実際

不妊とは

人工授精

体外受精

卵・受精卵提供

代理母・代理出産

顕微授精

精子・卵・受精卵の凍結保存

(2) 生殖技術をめぐる諸問題

安全性について

生まれてくる子どもの福祉について

社会への影響 生殖の商品化と商業化

(3) 不妊治療はだれのために フェミニズムの主張

平成8年度から11年度の欠課率と成績との相関調査 - 1年生と2年生の場合 -

塚野 修*

*新居浜工業高等専門学校一般教養科

新居浜工業高等専門学校紀要 第37巻, pp133-142, (2001)

平成8年度から平成11年度の本校1年生と2年生の欠課率を算出し、さらに、欠課率と成績との相関を調べた。その結果、この4年間の1年生の平均欠課率は1.8%、2年生は3.5%であり、2年次には1年次の約2倍欠課率を悪化させていることがわかった。また、平成8年度から平成10年度の全新生入に関して、2年次の学科内順位が1年次のそれよりも良くなった学生で、欠課率も悪化させなかった学生は約6割であり、欠課率を悪化させた学生は約4割であった。また、学科内順位を悪化させた学生で欠課率も悪化させた学生は欠課率を大きくしなかった学生の3倍近くもいることが判明した。

バスケットボールのゲーム分析 フリースローについて

今城英二*

*新居浜工業高等専門学校一般教養科

新居浜工業高等専門学校紀要第37巻, pp157-162, (2001)

バスケットボールにおいて個人的技能を効率的に習得し向上させていくために、シュートの基本であるフリースローに注目し、新居浜高専バスケットボール部のスコアを分析し、合理的・効果的な指導法を追求していこうとするものである。今回は、ゲーム中のフリースローの成功率や得点に対する割合、さらに勝敗への影響について取り上げ分析を試みた結果を報告するものである。

低学年における寮生の生活・学習に関する調査(1)

宮田 剛*¹、多田博範*²、今城英二*²

*¹新居浜工業高等専門学校機械工学科、 *²新居浜工業高等専門学校一般教養科

新居浜工業高等専門学校紀要37巻, pp77-86, (2001)

This study was aimed at investigating study condition and lifestyle of dormitory-students. The subjects in this study were younger borders in the dormitory from 1996 to 1999 academic year. Questionnaire was tried on the subjects in the 1997 academic year. On the other hand, we have analyzed the trend of record with respect to the final examination for four years since the 1996 academic year. These results indicated the effectiveness of education for dormitory-students.

冠詞認知モデル再考

野口正樹*

*新居浜工業高等専門学校一般教養科

新居浜工業高等専門学校紀要第37巻, PP143-156, (2001)

本稿では、指導論的文法に於ける英語冠詞の認知モデルを試案した。その際、認知処理レベルでは、commonness, boundedness, plurality の3素性が鍵となった。また、語用論レベルでは、presupposedness,

genericness, descriptiveness 及び inclusiveness の4素性が冠詞決定に与していた。尤も、両レベルの素性は独自に機能するものではなく、相互に関連しながら S-structures を形成して行く。また、本モデルは神経質に2者択一を迫るものではなく、大筋の弁別基準と捉えるのが妥当である。つまり、各素性は、事象に関する過去経験に基づく知識を抽象化・構造化した schema (スキ-マ) と捉えられる。この schema を常に照合しながら、人は entity の categorization (カテゴリ-化) を決定して行く。各素性の相互作用を視野に入れた複合モデルが構築出来れば、冠詞指導に大きな力となる。

中国の科学について (一) - 銭穆 『現代中国学術論衡』 訳注稿

野田善弘*

*新居浜工業高等専門学校一般教養科

新居浜工業高等専門学校紀要第37巻, pp163-170, (2001)

本稿は、銭穆著 『現代中国学術論衡』 に収められる「略論中国科学 (二)」を邦訳し、注釈を施したものである。

銭穆は本文において、「新文化運動」以来「迷信」「非科学」として否定された陰陽五行説・地気風水の説等について、その科学的意義や価値を再検討すべきことを提議する。さらに中国の文化伝統という観点から中国の科学を再検討することを主張している。

銭穆の本論文は、銭穆の科学観及び文化観を知るうえで有益な資料である。

〔 区 分 E 〕

松が枝を結ぶ心 活道の岡宴歌の論

森長 新*

*新居浜工業高等専門学校一般教養科

第53回(2000年度)萬葉学会全国大会, 2000年10月

万葉集巻六に見える天平十六年正月十一日の宴歌、「活道の岡に登り、一株の松の下に集ひて飲む歌二首」(一〇四二~三)は、作歌年次の知られる歌について、「古歌巻(巻一・二) - 古今歌巻(巻三・四) - 今歌巻(巻五・六)」という構成を意識した「小万葉」の終焉を飾るにふさわしい歌とされる(伊藤博『万葉集の構造と成立』『万葉集訳注』)。

しかし、この二首を天平十六年正月十一日の活道の岡での宴席という現場に戻して見たとき、その評価は多少異なるようである。「たまきはる命は知らず」という家持歌の上二句に宴席との違和感を感じ取る注釈書は多く、橋本達雄「活道の岡宴歌」(『万葉集を学ぶ』第四集)は、この宴席を安積皇子臨席の正月の賀宴であったろうとした上で、家持歌のこの「かげり」を持った表現は皇子臨席の場にふさわしくないものであり、一首は皇子退席後の詠であろうと想像した。このような見解の背景には、この宴の一ヶ月後に安積皇子が薨じたという史実があるのだが、吉井巖『万葉集全注』は、一首に皇子にまつわる「かげり」を見ることに異論を唱え、上二句の表現は家持の個の嘆きではあっても不稔なものではなく、松の常盤を歌う市原王歌に触発された個の齡の自覚なのであって、下三句の長久の願望へと展開すべき姿勢で歌われたものであるとした。

家持自ら「小万葉」の掉尾として据えたのである。一首が安積皇子にまつわる「かげり」を内包するとなれば、そこにはうらみが残ることになる。また、齡の自覚を前提とした長寿の願望は宴席において有効たり得たのか、作者の技量の問題なのか。いずれにしても二首は宴歌としていまだ十分に解釈されていないと考えられる。特に、家持歌は再考するに充分値するであろう。本発表では、樹下の宴という点と「松が枝を結ぶ」という表現とを手掛かりにして、これら二首について私見を述べた。